

序 文

「コロナ禍2年目の実習発掘調査である。今回は、調査地の選定に苦慮した。大学から通える、宿泊を伴わない実習調査地。そんなにたくさんあるものではない。そこで思いついたのが、我が大学の足元にある黒髪町遺跡群である。

埋蔵文化財調査室時代の調査経験から、縄文時代後期の遺物包含層を目指して、黒髪南地区の南東部の飛び地である生物科学コースの実習用の園地内を発掘調査候補地とした。事前の勉強会でも構内遺跡を中心とした熊本市内の縄文時代遺跡を中心に学習させた。

しかし、的は見事にはずれた。検出した遺構は数十年前に設置された水道管などの配管溝や攪乱土壌、出土した主な遺物は、現代のガラス瓶やコーヒー缶、陶磁器や瓦であり、縄文土器といえば、文様もなく器形もよくわからない小片1点のみであった。ただ、現場においては、地形測量、遺構（現代の溝や攪乱層）の検出と掘削、土層の観察による遺構の切り合い関係の把握、そして遺構実測を、また、整理・報告においては、ガラス瓶とはいえ実測や写真撮影、その型式認定や記述など、一通りの調査・整理過程を学生に経験させた。本報告書に掲載された遺物は、普段の発掘調査なら現場に埋め戻してくるものばかりである。

今回、実習発掘と報告書作成には、本年度より国際人文社会科学センターに赴任された久保田慎二先生が全面的な指揮をとってくださった。学生たちもその期待に応え、彼らの持つ技と知識とチームワークで事に当たり、無事に仕事を完結させた。安堵。」と、この序文を準備したのは、松の内、正月の3日であった。少し気が早すぎた。

例年なら印刷会社に原稿を渡している1月末になっても整理作業が一向に前に進まない。学生たちには荷が重すぎたのか...

いや、おそらく新型コロナの影響。人と人を引き離すコロナは、先輩と後輩、同期同士の接触の機会を奪い、知の伝承や共助を妨げた。そのため孤立し、普段なら難なく越えられる壁を前にして、次第に心が折れる学生が増え、指揮官不在に、整理・報告書作成が何度も暗礁に乗り上げた。発掘のときもそうであったが、これまでに感じたことのない、「研究室が崩壊する！」という恐怖を幾度か経験した...。ようやく今朝、学生の実稿に赤入れができる段階まで来た。ただ、片眼をつぶってやっている。読者の方も成長途上とご寛容のほど。

最後に、今回調査諸般にお世話をいただいた本学埋蔵文化財調査センターの大坪志子、山野ケン陽次郎、新里亮人の各先生をはじめ、励ましのお言葉や差し入れをいただいた熊本県教育委員会や熊本市教育委員会の方々、前教員や研究室の先輩諸方に心より感謝申し上げます。また、大学院自然科学研究科の北野健先生をはじめとする生物科学コースの諸先生のご協力なしには今回の実習発掘は実現しなかった。心より感謝申し上げます。

2022年2月8日

小畑 弘己

例 言

1. 本書は、熊本大学文学部考古学研究室による考古学調査の報告書である。
2. 本書は2部構成をとる。第1部では黒髪町遺跡群熊本大学構内黒髪南地区発掘・測量調査の成果、第2部では松橋大野貝塚出土遺物について報告する。
3. 第1・2部それぞれの遺跡・調査についての詳細は、以下の通りである。

【黒髪町遺跡群熊本大学構内黒髪南地区】

- (1) 黒髪町遺跡群熊本大学構内黒髪南地区は、熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番地に所在する。
- (2) 調査期間は、2021年9月13日～9月23日の計11日間である。
- (3) 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、熊本大学埋蔵文化財調査センターの協力を得て実施した。
- (4) 調査担当者は、小畑弘己（熊本大学大学院人文社会科学部教授）と久保田慎二（熊本大学大学院人文社会科学部准教授）である。
- (5) 黒髪町遺跡群熊本大学構内黒髪南地区に対する考古学的調査は、今回の調査以前にも実施されている。この中から今回の調査地点付近の調査を整理する。

9810 調査地点	調査年：1999年1月21日～3月25日 調査内容：理学部自然科学等総合実験棟新営工事 調査主体：1999年熊本大学埋蔵文化財調査センター
9907 調査地点	調査年：1999年9月22日～10月5日 調査内容：工学部実験用プレハブ新築工事 調査主体：1999年熊本大学埋蔵文化財調査センター
9911 調査地点	調査年：2000年3月6日～14日 調査内容：水生動物飼育舎建築工事 調査主体：2000年熊本大学埋蔵文化財調査センター
0938 調査地点	調査年：2010年1月14日、2月17日～19日 調査内容：エコロジーシステム実験室設置工事 調査主体：2010年熊本大学埋蔵文化財調査センター
1310 調査地点	調査年：2013年8月5日～2015年3月20日 調査内容：ライフライン再生（給水設備等）工事 調査主体：2013年～2015年熊本大学埋蔵文化財調査センター

- (6) 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
- (7) 土層名の色調は『新版標準土色帖』による。
- (8) 第1図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図（伊倉・植木・肥後大津・肥後船津・熊本・健軍・宇土・御船）、第2～4図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図（黒髪・大江）を複製したものである。
- (9) 調査および整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。

宮崎敬士（熊本県文化課）、原田範昭・三好栄太郎（熊本市文化財課）、大坪志子・新里亮人・山野ケン陽次郎（熊本大学埋蔵文化財調査センター）

(10) 調査参加者は以下のとおりである。

小畑弘己・久保田慎二（熊本大学教員）、西 貴史（同文学部4年生）、追立夕夏・大道優奈・川元由比・佐藤史弥・松岡絹恵・松田 響（同文学部3年生）、岡本久遠・田中 敦・田原悠輝・森次みお（同文学部2年生）、ソムマーイ・シントン（同大学院人文社会科学教育部博士課程研究生）

【松橋大野貝塚】

(1) 松橋大野貝塚は、熊本県宇城市松橋町松橋に所在する。

(2) 今回報告するのは、熊本大学が所蔵する松橋大野貝塚の未報告資料である。

(3) 第10図は宇城市地籍集成図を複製したものである。

(4) 出土土器の検討では宮地聡一郎氏（福岡教育庁教育総務部文化財保護課）からご教示を賜った。

(5) 調査および整理作業の実施にあたっては、藤川智絵氏（宇城市文化振興課）からご協力とご援助を賜った。

(6) 整理作業者は以下の通りである。

小畑弘己・久保田慎二（熊本大学教員）、西 貴史（同文学部4年生）、追立夕夏・大道優奈・川元由比・佐藤史弥・松岡絹恵・松田 響（同文学部3年生）、岡本久遠・田中 敦・田原悠輝・森次みお（同文学部2年生）、ソムマーイ・シントン（同社会科学研究部大学院研究生）

4. 本書の編集は小畑弘己、久保田慎二の監修を受けて追立夕夏・川元由比・佐藤史弥・松岡絹恵が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

5. なお今回、熊本大学埋蔵文化財調査センターが報告を行った熊本大学構内遺跡の報告書を参考・引用する際の出典の表記として、報告書の場合は〔熊大埋C報 発行年〕、年報の場合は〔熊大埋C年 発行年〕を使用した。

本文目次

第1部 黒髪町遺跡群熊本大学構内黒髪南地区調査報告	1
一 位置と環境	3
1. 地理・地質的環境	岡本久遠 3
2. 歴史的環境	田中敦・森次みお 4
二 調査経過	7
1. 過去の調査	大道優奈 7
2. 今回の調査	松岡絹恵 8
三 トレンチの概要	10
1. 第1トレンチ	追立夕夏 10
2. 第3トレンチ	川元由比 10
3. 小結	追立夕夏 11
四 遺物	岡本久遠 14
五 総括	松岡絹恵 18
第2部 松橋大野貝塚出土遺物報告	19
一 位置と環境	川元由比 21
二 報告に至る経緯	追立夕夏 22
三 遺物	佐藤史弥 22
四 総括	追立夕夏 27

図版目次

黒髪町遺跡群熊本大学構内黒髪南地区	
図版1	1 空からみた調査区とその周辺
	2 西から調査区を望む（右に見えるのが白川）
図版2	3 第1トレンチ調査前風景（西から）
	4 第3トレンチ調査後風景（南から）
図版3	5 第1トレンチ全景（南東から）
	6 第3トレンチ全景（南東から）
図版4	7 熊本大学構内黒髪南地区出土遺物（1）
図版5	8 熊本大学構内黒髪南地区出土遺物（2）
図版6	9 熊本大学構内黒髪南地区出土遺物（3）

松橋大野貝塚

- 図版 7 10 松橋大野貝塚出土遺物 (1)
図版 8 11 松橋大野貝塚出土遺物 (2)
図版 9 12 松橋大野貝塚出土遺物 (3)

挿 図 目 次

第 1 図	熊本平野北部の地形…………… (松岡作成) ……………	3
第 2 図	熊本大学構内黒髪南地区調査地点分布図…………… (川元作成) ……………	5
第 3 図	調査地点周辺の既往調査…………… (川元作成) ……………	8
第 4 図	調査地点測量図…………… (佐藤作成) ……………	9
第 5 図	第 1 トレンチ坑断面図・平面図…………… (川元作成) ……………	12
第 6 図	第 3 トレンチ坑断面図・平面図・ピット坑 1 断面図 (川元作成) ……………	12
第 7 図	当調査地点周辺の層序と周辺調査地点の層序対応図 …………… (熊大埋 C 報 2019 を改変・追立・川元作成) ……………	13
第 8 図	熊本大学構内黒髪南地区出土遺物実測図 (1) …… (田中製図) ……………	15
第 9 図	熊本大学構内黒髪南地区出土遺物実測図 (2) …… (田中製図) ……………	16
第 10 図	松橋大野貝塚周辺地図…………… (川元・佐藤作成) ……………	21
第 11 図	松橋大野貝塚出土遺物実測図 (1) …………… (追立・岡本・川元・佐藤・田中製図) ……………	23
第 12 図	松橋大野貝塚出土遺物実測図 (2) …………… (追立・岡本・川元・佐藤・田中製図) ……………	24
第 13 図	松橋大野貝塚出土遺物実測図 (3) …………… (追立・岡本・川元・佐藤・田中製図) ……………	25

表 目 次

第 1 表	熊本大学構内黒髪南地区調査地点一覧表…………… (川元作成) ……………	6
第 2 表	当調査地基準点の現場座標…………… (佐藤作成) ……………	9
第 3 表	当調査地基準点の国土座標…………… (佐藤作成) ……………	9
第 4 表	熊本大学構内黒髪南地区出土遺物一覧表…………… (川元作成) ……………	17
第 5 表	松橋大野貝塚出土遺物一覧表…………… (佐藤・松岡作成) ……………	26